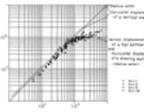


岩崎伸一研究史と地震・津波災害 (1)

～1970年代	岩崎伸一研究史	主な地震及び津波災害	防災科研の動き (地震・津波関係)
 <p>『幼稚園や小学校では、活発で、よく遊んで、仲間と粘土をしたり、ちょっと馴れで、クイズ好きだったと話してくれました』</p>  <p>高校時代天文班のメンバーとともに</p>  <p>東大地物の頃</p>	<p>1953.9.26 東京都台東区生まれ</p> <p>1960 台東区立東京小学校入学</p> <p>1966 台東区立竜泉中学校入学</p> <p>1969 都立白鷗高校に入学。天文部に入部</p> <p>1974 東京大学理学部I類 入学</p> <p>1976 東京大学 理学部地球物理学科 進学</p> <p>1978.3 東京大学 理学部地球惑星物理学科 卒業 1978.4 東京大学大学院 理学系研究科 地球惑星物理学専攻 入学</p>	<p>1953.11.26 房総沖地震(房総半島沖:M7.4)</p> <p>1958.7.9 アラスカ、リツヤ湾の津波(アラスカ、リツヤ湾:M7.9)</p> <p>1960.5.23 チリ地震津波(チリ沖:M8.5)</p> <p>1964.3.28 アラスカ地震津波(プリンス・ウィリアム湾<Prince William Sound>:M8.4) 1964.6.16 新潟地震(新潟県沖粟島付近:M7.5)</p> <p>1968.4.1 1968年向日灘地震(向日灘:M7.5) 1968.5.16 1968年十勝沖地震(青森県東方沖:M7.9)</p> <p>1973.6.17 1973年6月17日根室半島沖地震(根室半島南東沖:M7.4) 1974.5.9 1974伊豆半島沖地震(伊豆半島南端:M6.9)</p> <p>1978.1.14 1978年伊豆大島近海地震(伊豆大島近海:M7.0) 1978.6.12 1978年宮城県沖地震(宮城県沖:M7.4)</p>	<p>1956.5 科学技術庁が設置される</p> <p>1961.11 災害対策基本法が制定される</p> <p>1963.4.1 国立防災科学技術センターが設立</p> <p>1964.7.1 科学技術庁設置法が改正(国立防災科学技術センターに支所の設置が可能)</p> <p>1965.8 波浪等観測塔が開設される(平塚) 1965.12 波浪等観測塔が完成する(平塚)</p> <p>1967.6.10 組織規則一部改正(平塚支所設置)の後、平塚支所が設立する</p> <p>1967.6.21 強震観測事業推進連絡会議が発足する</p> <p>1975.10.31 研究本館が完成する</p> <p>1978.4 筑波研究学園都市への移転が完了する</p> <p>1978.4 下総地殻活動観測施設が観測を開始する</p> <p>1978 1978年度から大型の特別研究「関東・東海地域における地殻活動に関する研究」が開始される(1983年度まで)</p>
<p>1980年代</p>  <p>修士論文(英文): 地滑りによる津波</p>  <p>定年退官される指導教官 梶浦欣二郎氏と 防災科学技術研究所へ 入る岩崎伸一氏の歡送会 (1986.3.24)</p>  <p>海外デビュー バンクーバー国際 津波シンポジウム</p>	<p>1980.3 東京大学大学院理学研究科 地球惑星物理学専攻 修士課程修了 修士論文(英文):地滑りによる津波</p> <p>1980.4 東京大学大学院理学研究科 地球惑星物理学専攻 博士課程進学 羽鳥徳太郎、相田勇、岩崎伸一、日比谷紀之(1981)尾鷲市街に遡上した津波の調査。地震研究所彙報,Vol.53, pp245-263</p> <p>Iwasaki, S.I. (1982)Experimental study of a tsunami generated by a horizontal motion of a sloping bottom, Bulletin of the Earthquake Research Institute,Vol.57, pp239-262</p> <p>1984.3 東京大学大学院理学研究科 地球惑星物理学専攻 博士課程単位取得退学 1984.4 日本学術振興会奨励研究員(東京大学地震研究所)</p> <p>1986.4 国立防災科学技術センター平塚支所 岩崎伸一、竹田 厚(1987)羅賓の津波石。歴史地震,第5号, pp202-205</p> <p>岩崎伸一(1987)東海地方の歴史津波[安政東海津波/下田での挙動から/ディアナ号の感じた海震(Sea-Shock)],月刊地球,Vol.9, No.4, pp200-204.(PDF)</p> <p>Iwasaki, S.I. (1987)On the estimation of a tsunami generated by a submarine landslide, Proc. 13th International Tsunami Symposium in Vancouver On the estimation of a tsunami generated by a submarine landslide, Proc. 13th International Tsunami Symposium in Vancouver,134-138</p> <p>1988.4 国立防災科学技術センター平塚海洋防災研究支所</p> <p>岩崎伸一(1988)津波の直前対策 海中音波観測による津波監視、沿岸災害の予知と予測(分担執筆)150-153,日亜書房</p> <p>岩崎伸一、吉井敏尅、都司嘉宣、石橋克彦、笠原敬司、小見波正隆(1989)歴史地震史料集のデータベース化について-パソコンで読める史料集-歴史地震5, pp151-155東京大学地震研究所</p>	<p>1982.3.21 昭和57年浦河沖地震(浦河沖:M7.1)</p> <p>1983.5.26 昭和58年 日本海中部地震(秋田県及び青森県沖:M7.7)</p> <p>1984.9.14 昭和59年長野県西部地震(長野県西部:M6.8)</p> <p>1985.9.19 メキシコ南西部で大地震(M8.1)</p>	<p>1980 府中地殻活動観測施設が観測を開始する</p> <p>1984.3 関東・東海地殻活動観測網がほぼ完成</p>
<p>1990年代 (1990~1992年)</p>  <p>津波検知と予報 海中音波(1989)</p>	<p>1990.6 防災科学技術研究所(改組)気圏・水圏地球科学技術研究所 Iwasaki, S.I. (1990)On the feasibility of new tsunami warning system by measuring the low frequency T wave,2nd International Tsunami Workshop on the Technical Aspects of Tsunami Warning Systems, Tsunamis Analysis, Preparedness, Observation and Instrumentation, Intergovernmental Oceanographic Commission, Workshop Report No.58-Supplement151-161</p> <p>Iwasaki, S.I. (1990)A semi-analytical and semi-empirical method for the evaluation of tsunami generating efficiency due to landslides plunging into the water bodies,4th Pacific Congress on Marine Science and Technology,162-166</p> <p>Iwasaki, S.I. (1990)A tsunami generated by a horizontal motion of a landslide in an ocean,14th International Tsunami Symposium in Novosibirsk,1-5.</p> <p>岩崎伸一(1991)文献史料に基づく歴史津波の研究,Security,12-17,セキュリティワールド.</p> <p>都司嘉宣、日野貴之、矢沼隆、岩崎伸一、北原系子(1991)安政東海地震津波(1854)の浸水高の精密調査,歴史地震,7, 43-56,歴史地震研究会</p> <p>岩崎伸一(1991)徳島県日和佐における安政南海津波の痕跡高-奥河内村田地大地震二付潮入り御嶽下石寄からの推定,歴史地震,7, 57-68,歴史地震研究会</p> <p>歌田久司、行武 毅、笠原順三、岩崎伸一(1992)GeO-TOC計画における電磁気観測装置の試作と予備実験,海洋,24, 7(no.265), pp423-429,海洋出版</p> <p>岩崎伸一(1992)海中音波、気圧波を利用した津波予測技術について津波工学研究報告第9号, pp65-83</p>	<p>1992.10.12 エジプト地震(M5.9) 1992.9.12 ニカラグア地震(M7.2)</p> <p>1993.7.12 北海道南西沖地震津波(奥尻島西方:M7.8) 1993.9.30 インドで大地震(M6.4)</p> <p>1994.10.4 北海道東方沖地震(北海道根室半島沖200km:M8.2)</p> <p>1995.2.9 コロンビアで地震(M6.3) 1995.5.27 サハラ北部で地震(M7.6) 1995.7.30 チリ北部沿岸で地震(M7.3)</p>	<p>1990.6.8 国立防災科学技術センターから防災科学技術研究所へ改組される。</p>

岩崎伸一研究史と地震・津波災害 (2)

1990年代 (1993~1999年)



つくばにお引越し
(1993年4月1日から
つくばに勤務)



メルボルンにて(1997)



クレタ島の学会にて
(1998)

岩崎伸一研究史

岩崎伸一(1994)検潮記録からみた北海道南西沖地震津波.TAGS(筑波応用地球学談話会誌),6, pp10-20

岩崎伸一, 加藤健二(1994)北海道南西沖地震における地震と津波の特徴.火災(日本火災学会誌)Vol.44, No.2, pp1-9

渡部 勲, 岩崎伸一(1994)衛星によるマイクロ波散乱計測風アルゴリズムに関する研究, 地球環境遠隔探査技術等の研究.成果報告書(平成5年度),pp24-33.科学技術庁研究開発局

岩崎伸一(1996)飛島の津波観測施設.歴史地震.第11号, pp127-132.歴史地震研究会

Iwasaki, S.I., A.S. Furumoto and E. Honza (1996)Can a submarine landslide be considered as a tsunami source?.ScienceofTsunamiHazards,Vol.14, No.2, pp89-100

都司嘉宣, 岩崎伸一(1996)和歌山沿岸の安政南海津波(1854)について.歴史地震.第12号, pp169-187.歴史地震研究会

Iwasaki, S.I., T. Eguchi, Y. Fujinawa, E. Fujita, I. Watabe, E. Fukuyama and H. Fujiwara (1997)Precise tsunami observation system in deep ocean by an ocean bottom cable network for the prediction of earthquakes and tsunamis, in Perspectives on Tsunami Hazard Reduction edited by G.T. Hebenstreit,47-66

Iwasaki, S.I. (1997)The waveforms and directivity of a tsunami generated by an earthquake and a landslide, Science of Tsunami Hazards, Vol.15, pp23-40

防災科学技術研究所, 江口孝雄, 藤縄幸雄, 藤田英輔, 岩崎伸一, 渡部 勲, 藤原 広行, 松村正三(1997)相模トラフのオンライン海底地震観測網のデータについて.地震予知連絡会会報.58, pp106-117.国土地理院

岩崎伸一(1998)低周波まで計測できるハイドロホンによる多目的津波監視システム.月刊海洋/号外.No.15津波研究の最前線, pp61-65

Iwasaki, S.I., T. Eguchi, Y. Fujinawa, E. Fujita, I. Watabe, and H. Fujiwara (1998)The 1996 Torishima tsunami and causes of abnormal tsunamis.津波災害の軽減に関する国際ワークショップ論文集,69-86

Eguchi, T., Y. Fujinawa, E. Fujita, S. Iwasaki, I. Watabe and H. Fujiwara (1998)A real-time observation network of ocean-bottom-seismometers deployed at the Sagami trough subduction zone, central Japan, Marine Geophysical Research, 20, pp73-94

岩崎伸一(1999)歴史地震史料集電子データベースの現状と課題.地学雑誌.Vol.108, No.4, pp465-471

防災科学技術研究所, 江口孝雄, 藤縄幸雄, 藤田英輔, 岩崎伸一, 渡部 勲, 松村 正三(1999)相模トラフの[海底津波計]による[1998年4~5月の伊豆半島東方沖群発地震の最大地震(5.4Mjma)の水圧記録等], 地震予知連絡会会報, 61, pp270-278, 国土地理院

主な地震及び津波災害

1993.7.12 北海道南西沖地震津波(奥尻島西方:M7.8)

1993.9.30 インドで大地震(M6.4)

1994.10.4 北海道東方沖地震(北海道根室半島沖200km:M8.2)

1995.2.9 コロンビアで地震(M6.3)

1995.5.27 サハリン北部で地震(M7.6)

1995.7.30 チリ北部沿岸で地震(M7.3)

1996.2.17 インドネシアで地震(M7.5)

1998.2.4 アフガニスタン北東部で地震(M6.1)

1998.5.30 アフガニスタン北部で地震(M6.9)

1998.7.17 パプアニューギニアで地震(M7)

1999.1.25 コロンビアで地震(M6)

1999.8.17 トルコ大地震(M7.4)

1999.9.21 集集地震(台湾大地震)(M7.7)

1999.11.12 トルコ北西部で地震(M7.2)

防災科研の動き (地震・津波関係)

1996.3 相模湾海底地震観測施設を平塚実験場に開設する。

1996.3 K-NET(強震観測網)が稼働を開始する。

1996.6.3 強震記録の公開が開始される。

1997.3 Hi-net(高感度地震観測網)及びKiK-net(基盤強震観測網)が稼働を開始する。

1997.11 F-net(広帯域地震観測網)が稼働を開始する。

2000年代



パプアニューギニア
津波について
(1998年)



長年研究してきた
Landslide Tsunamiに
多くの関心が集まる
(2003)



写真提供: 首藤伸夫

岩崎伸一研究史

Iwasaki, Sin-Iti (2000)How to minimize tsunami victims, Proc. 3rd EU-Japan Workshop on Seismic Risk,138-145 [この時, 収録17論文中3論文が地滑りによる津波]

防災科学技術研究所, 江口孝雄, 渡部勲, 藤縄幸雄, 藤田英輔, 岩崎伸一, 松村 正三(2000)海底地震観測網データに基づく相模トラフ周辺の地震活動並びに海底水温の推移.地震予知連絡会会報.64, 168-177.国土地理院

2001.4 独立行政法人防災科学技術研究所総合防災研究部門

Iwasaki, Sin-Iti and Shoji Sakata (2001)Landslide tsunami generation mechanism and its detection for early tsunami warning, in Tsunami Research at the End of a Critical Decade, edited by G.T. Hebenstreit, 229-241

RYDELEK Paul A., EGUCHI Takao, WATABE Isao, IWASAKI Sin-Iti, FUJINAWA Yukio, FUJITA Eisuke, MATSUMOTO Koji (2001)Tidal Analysis of Data from Pressure Sensors Located at the Sagami Trough, Central Japan, Journal of the Geodetic Society of Japan,47(1), pp107-113.Geodetic Society of Japan

岩崎伸一, 松浦知徳, 渡部 勲(2002)地殻変動を除去した長期海水位変動と海面水温の関係—本州沿岸域—, 海の研究.第11巻, 第5号, pp529-542

岩崎伸一(2002)古津波の痕跡高調査に関する「嶽下願い」の活用について—安政南海津波徳島県日和佐町の例—.月刊海洋/号外.No.28津波研究の最前線, pp88-95

岩崎伸一, 福地鉄雄, 清水良次(2002)ハイドロホンによる.波浪.地震波の測定.音響学会講演論文集,57-60

2005-2007 科学技術振興調整費 インド洋における津波記録の系統的収集

行谷佑一, 都司嘉宣, 松本浩幸, KANBUA Wattana, SRIVICHAI Mongkonkorn, MEESUK Vorawit, 岩崎伸一(2005)2004年インド洋地震津波のタイ国海岸Phuket島及びKhaoLak地区以外の場所での浸水高調査.海岸工学論文集.52(2), pp1351-1355.土木学会

2006.4 独立行政法人防災科学技術研究所 水・土砂防災研究部門

岩崎伸一, 中須 正, 谷岡勇市郎, 西村裕一, 都司嘉宣, 行谷祐一, 松本浩幸, 井上修作(2006)検潮所で観測されたスマトラ津波.月刊地球/号外.No.56 スマトラ島沖地震とインド洋津波, pp128-136.海洋出版

都司嘉宣, 行谷佑一, 松本浩幸, KANBUA Wattana, SRIVICHAI Mongkonkorn, MEESUK Vorawit, 岩崎伸一(2006)2004年インド洋地震津波のタイ国海岸津波浸水高_PhuketおよびKhaoLak地区以外の海岸について.月刊地球/号外No.56 スマトラ島沖地震とインド洋津波, pp137-145.海洋出版

谷岡勇市郎, 岩崎伸一(2006)津波波形インバージョンによる2004年スマトラ地震の震源過程解析.月刊地球/号外No.56 スマトラ島沖地震とインド洋津波, pp19-24.海洋出版

2007 UNISDRから研究受託 津波堆積物調査によるインド洋の津波繰り返し周期とその挙動の推定

岩崎伸一, 平田賢治(2007)津波の観測.津波の事典,85-95.朝倉書店

2008.11 永眠

主な地震及び津波災害

2001.1.26 インド西部(グジャラート)地震(M7.9)が発生.死者2万名

2001.1.13 エルサドバドルで地震(M7.6)が発生.死者3000名

2003.9.26 十勝沖地震(十勝沖:M8)

2003.12.26 イラン, バムで地震(M6.7)

2004.12.26 スマトラ島沖地震(M9.3)が発生.インド洋周辺諸国に大規模な津波被害をもたらす.死者・行方不明者は外国人観光客を含む約30万名

2005.3.28 インドネシア・スマトラ島沖地震(M8.6)

2005.8 パキスタン地震(M7.6)

2006.5.27 ジャワ島中部地震(M6.2)

2006.7.17 ジャワ島南西沖地震(M7.7)

2008.5.12 中国四川省で地震(M7.9)

防災科研の動き (地震・津波関係)

2001.1 防災科学技術研究所, 科学技術庁から文部科学省に移管される。

2001.4 防災科学技術研究所, 国立試験研究機関から独立行政法人へと移行する。

2006.4 第二期中期目標・中期計画開始に伴い, 研究組織が3研究部(地震, 火山防災, 水・土砂防災), 3研究センター(防災システム研究センター, 兵庫耐震工学研究センター, 雪氷防災研究センター)に再構成され, 非特定独立行政法人に移行する。

2008.3 平塚実験場を廃止する